

# グリーン四国

No.1219  
2021年  
10月号

## 災害対応力の強化に向け 防災訓練を実施

【詳細は4頁】



龍王の滝（撮影：嶺北森林管理署長）

### 目次

・橋本局長就任挨拶	2
・石垣前四国森林管理局長の挨拶	3
・災害対応力の強化に向け防災訓練を実施	4
・署長からのメッセージ	6
・OJTによる森林教室を実施しました	7
・歴史的資料の林業遺産について関係機関でオンライン対談を実施しました	8
・各署等のたより	10



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

# 橋本局長就任挨拶



10月1日付で四国森林管理局局長を拝命しました橋本です。

四国森林管理局は約18万haという広大な国有財産である国有林を管理しています。この「管理」に当たっては、単に木を伐採して売るといっただけでなく、公益的機能の発揮を始めとして様々な役割を果たすことが期待されています。

近年、局地的豪雨などの災害が多発していますが、土砂災害の防止や

迅速な復旧事業など適切な森林整備を行うとともに、災害が発生した際には、ヘリコプターによる被災状況の迅速な把握や関係市町村等への情報提供、機材の貸し出し、人的支援など局署等の組織・技術・資源を活かした対応が求められています。

素材の生産・出荷については、森林組合や素材生産事業者、需要者である製材工場等の方々から、管内の出材量や価格の状況を十分伺いつつ、ニーズを踏まえて柔軟に対応していくことや、森林整備や素材生産について、より低コスト化や省力化に資する技術の実証、自治体や事業体への普及の場としての国有林の活用、貴重な動植物の生息環境の保全、森林の憩いの場としての利用、地域振興への貢献など様々な役割も期待されています。

森林管理局は、国有林の管理を行

## 新四国森林管理局長

## 橋本 裕治

う者として、こうした財やサービスを提供に取り組んでいるところですが、提供に当たっては、供給側の視点だけでその内容を考えるのではなく、需要者側（林業事業者、木材産業、市町村等の自治体、地域住民の方々等）のニーズ、すなわち、何が求められているのか、何が必要とされているのか、をしっかりと把握し、今行っている業務について常に改善していくことが重要です。

私も、コロナ禍ではあるものの、なるべく現場に足を運び、県、市町村、森林・林業関係者、地域の皆様のご意見を伺いながら、四国森林管理局の業務の推進に取り組み、四国の森林・林業・木材産業を盛り上げ、地域の活性化に貢献したいと考えております。

局署の職員のみなさんにおかれては、こうした役割を果たしていく上

で、森林整備や素材生産に関する高い技術力を組織として維持していくことが欠かせません。日々の業務において、また、研修などを活用して、常に技術の研鑽に努めるとともに、近年発展の著しいICT技術など新たな技術を積極的に取り入れ、技術の向上を図っていただくようお願いいたします。

また、コロナの波がいくつも押し寄せる中で、日々の業務にも苦労されることも多いかと思いますが、3密の回避や換気の徹底、マスクの着用など引き続き感染防止に留意しつつ、また、作業現場での安全確保にも気を付けながら、四国森林管理局がその役割をしっかりと果たせるよう業務に取り組んでいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

# 四国の森林・林業の発展に期待を寄せて

前四国森林管理局長

石垣 英司



している四国は日本列島全体の特色が凝縮された地であり、それだけに人口減少・高齢化に伴う諸課題が最も尖鋭的に現れていることを改めて強く感じます。

令和元年10月に四国森林管理局長に就任以来2年にわたり、森林・林業土木関係者の皆様並びに地方自治体の皆様の多大な御理解御協力をいただきましてまいりましたことに、深く感謝申し上げます。

2年という短期間ながら当地での勤務・生活を通じて、森林に覆われた山地が大宗を占め、海岸線近くや山間の限られた平坦地に人口が集中

今や我が国の森林は先人たちの造林、保育などを経て利用期を迎えており、とりわけ尖鋭化した課題に直面している四国において森林・林業に携わる皆様は、全国でも最先端の位置に立っているだけでなく、人類共通の課題である脱炭素社会・持続可能社会の実現に不可欠な森林の多面的機能の維持という世界的にも重要な役割を担っておられると申せましょう。

大いに誇りとするところです。直面する課題は容易なものではないかも知れませんが、皆様の御努力により力強く克服し、四国の森林・林業の発展を実現していくことに大きな期待を寄せますとともに、四国森林管理局も引き続き、国有林の保全管理や山地災害防止・国土強靱化に向けた治山事業に加えて、これまで蓄積してきた知識や、技術に関する様々な情報の提供などを通じて皆様の取組を応援してまいります。

目に焼き付けてまいりました。一旦は四国を離れますことは誠に心残りではありますが、いつの日か皆様のお役に立てるよう、森林・林業に向き合う皆様の姿と四国の風景を心に抱きつつ精進してまいります。

皆様のますますの御健勝と御発展を心よりお祈り申し上げます。



## 災害対応力の強化に向け防災訓練を実施

〈四国森林管理局〉

四国森林管理局では、毎年9月1日を中心とする防災週間に防災訓練を行っておりますが、令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて延期し、9月27日に改めて実施しました。

災害発生時の対応を迅速かつ適切に行うためには、平時から災害発生時の対応をシミュレーションして、訓練を通じ組織防災力を維持、強化していくことが重要です。

このため、今年の訓練は、昨年度の反省点を踏まえて一部見直しを行った上で、南海トラフ大地震の発生を想定し、災害対策本部をスムーズに設置し、各出先機関である森林管理署等から職員の安否情報を中心とする情報を集め、対応方針を協議し、指示を行うということ課題として実施しました。

### （参集職員の徒歩等参集訓練）

当局では、震度6弱以上の地震が発生した際、災害対応を優先的に実施する非常参集要員は、直ちに当局庁舎に参集することとしています。

この訓練では、朝7時に大地震が発生したとの想定で、まず非常参集要員に対し、安否確認等一斉連絡サービスを利用して参集要請を行いました。連絡を受け取った訓練参加者は、大地震による建物や電柱の倒壊、津波による浸水など平時と全く異なる状況が想定されることを踏まえて、普段自動車で通勤している職員も含めて徒歩又は自転車で局庁舎に参集しました。この訓練では全員問題なく参集できましたが、参加者からは「実際の災害時は多くの職員が迅速に集まるのは困難ではないか」「今回は事前に参集要請があることが分かっていたので対応できた

が実際の災害時は難しいかも知れない」といった意見もありました。

### （災害対策本部設置訓練）

また当局では、災害に対応するためのマニュアルを定めており、南海トラフ地震など大災害が発生した際は、情報収集を一元化し応急対応を進めるため、大会議室に災害対策本部を設置することとしています。

この「災害対策本部設置訓練」では、参集した非常参集要員を中心とする訓練参加者が、マニュアルをもとに、机、椅子、ホワイトボードを配置し、パソコン、電話、各種ケーブルを繋ぐなどして本部の設置を行いました。この訓練では昨年度の反省を生かし、人の動く場所を避けてケーブルを設置するなどの改善を図りました。参加者からは「役割分担がきちんと決められていたのでスムーズに動けた」といった意見があった一方、「機材がどこにあるのか各人が把握しておく必要がある」という意見もあり改善を図っていきたいと思います。



災害対策本部設置訓練



〔災害対策本部運営訓練〕

災害対策本部設置後は、森林管理局と各森林管理署等との連絡体制を確保するとともに、県や市町村など関係機関と連携しながら初動対応を行う必要があります。

この「災害対策本部運営訓練」は、大地震発生から約3時間後を想定し、訓練参加者が役割分担して、各森林管理署等から職員の安否情報や被害情報等を聞き取り、対応方針を協議し指示を行うという内容で実施しました。この訓練では、昨年度からの改善点として、収集した情報について一旦分類し重要なものから議論していくなどの方法を実施し、全体としてはスムーズな対応が出来たものと思います。

参加者からは「もっと多くの職員が訓練に参加し経験を積むことが必要」「収集した情報の共有や報告はなるべく口頭でなく文字で行った方がよい」などの意見が出され、これらについても今後改善していきたいと思えます。



災害対策本部運営訓練

〔地震の揺れから身を守る訓練（シエイクアウト訓練）〕

また、当日は、自治体や学校でも広く実施されている「地震の揺れから身を守る訓練（シエイクアウト訓練）」を実施しました。地震が発生した際は、まずそれぞれの場所ので、各人が自分の身を守る必要があり、室内であれば落下物から頭を守るために机やテーブルの下に隠れたり、野外であればカバンなどで頭を守ることを考えられます。訓練では、当局庁舎に勤務する職員を対象として、地震の発生を館内放送で合図し、放送が流れる間強い揺れが続いているという想定で、各自が身を守る行動を取りました。参加者からは「机の下に限らず安全を確保し対応した」「揺れが収まった後の行動についても訓練すべき」などの意見がありました。この訓練は多くの職員が参加出来、防災意識を高める効果もあると思いますので、改善を図りながら引き続き実施していきたいと思えます。

〔最後に〕

当局では、今回実施した防災訓練などの経験も踏まえて、マニュアルの内容を随時見直ししていくとともに、引き続き、地域の安全・安心の確保に向けて、このような防災訓練を広く企画、実施し、組織や職員の災害対応力の強化につとめてまいります。



訓練後のふりかえり



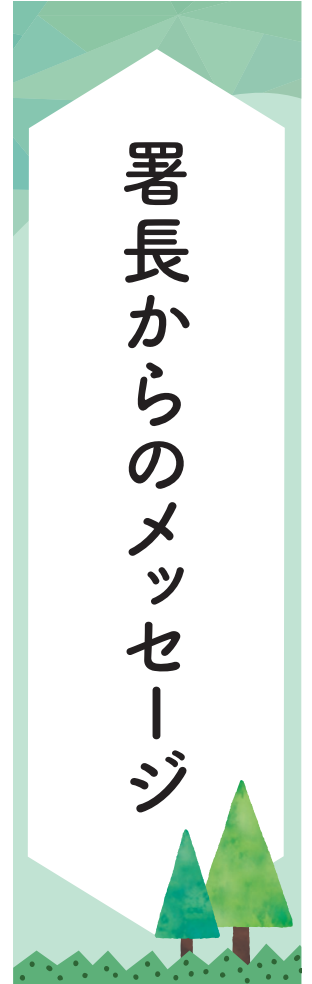
## 管内の県立自然公園

〈嶺北森林管理署長 小笠原 建夫〉



梶ヶ森県立自然公園にて

皆さんご承知のとおり、高知県内の自然公園は、国立公園が1箇所（足摺宇和海国立公園）、国定公園が3箇所（石鎚国定公園、剣山国定公園、室



戸阿南海岸国定公園）そして、県立自然公園が18箇所指定されています。

その内、嶺北森林管理署管内で国有林分布の多い県立自然公園が5箇所（白髪山県立自然公園、中津渓谷県立自然公園、安居渓谷県立自然公園、梶ヶ森県立自然公園、工石山陣ヶ森県立自然公園）があります。

私からのメッセージは、皆さんにはあまり知られていない、梶ヶ森県立自然公園をご紹介します。

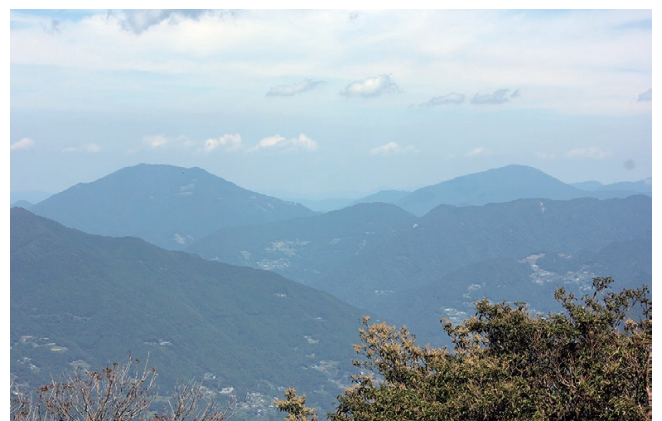
梶ヶ森県立自然公園は、大豊町の南東部に位置し、公園面積17.40km<sup>2</sup>、標高1,400mの梶ヶ森の山岳景観を中心とし、西に石鎚山系、東に剣山系、南に太平洋、眼下に四国三郎、吉野川流域を眺望することができます。

梶ヶ森山頂からは、当署管内の事業地が眺望でき、西は愛媛県境に接

する緑の回廊の峰々から、北には、愛媛・徳島・高知の三県の境に位置する三傍示山<sup>さんぼうしさん</sup>、笹ヶ峰山国有林外がつながり、裾野の民有地は吉野川上流治山事業所（大豊地区）の事業地となっています。



西方面（石鎚山系）



北方面（三傍示～笹ヶ峰）

東は、徳島県境に接する京柱峠までの西峰・柚木地区は、南小川治山事業の事業地が一望でき、そこから南方に向け高知中部署との畝境には、小檜曾山国有林から青ざれ山国有林外の峰々が広がっており、晴天時には360度のパノラマで管内の事業地が眺望できる絶好のポイントです。



東方面（京柱峠～剣山）

梶ヶ森の見どころは、頂上付近はアセビ、ツツジ、ササ、カヤ類が群生した草原で展望に優れており、春や夏の草原には高山植物が咲き、秋には紅葉が山を覆い、冬には氷の花が観られます。

また、七合目には、日本の滝百選にも選ばれている水量豊富な龍王の滝（表紙写真）があり、駐車場から徒歩約10分の距離で行くことが出来ます。

八合目には、定福寺奥の院である仏岳山遍照院等の景勝地や九合目付近は、山荘「梶ヶ森」の宿泊施設

キャンプ場もあり夏場は大勢のキャンパーで賑わいます。



南方面（奥の峰々は高知中部署との管理署界）

なお、頂上まで自動車道が整備されているため車で山頂まで行ける数少ない山です。運動不足の人にはお勧めできませんが、是非、皆さんも梶ヶ森県立自然公園へ足を運んでみてください。



## OJTによる森林教室を実施しました。

### （入庁5年目研修生）

〈局技術普及課〉

去る8月6日、吾川郡いの町立伊野小学校において、いの児童クラブからの応援依頼を受け、この機会を活用したOJTとしての森林教室を開催しました。



研修生が「森の働き」の説明をしている様子

当日は、コロナ禍のため、ソーシャルディスタンスを確保し、対象者の60名を1・2年生30名と3年生以上30名の2班に分け、「森林の働き」の

学習と木工教室「森と川と海の生き物たちと遊ぼう」・「空飛び種子で遊ぼう」の3科目について、講師となった局の若手職員は小学生の反応を見ながらのやり取りに奮闘していました。



熱心に作品を児童が作っている様子

参加した児童は、森林の働きについて熱心に学習し、木工教室では脇目も振らずに夢中になって作品を作り、個性豊かな出来上がり喜んで持ち帰っていました。

今回、OJTでは初めての試みとなる、森林環境教育の依頼に対応するために必要な事前の企画と構成の段階から、実行と実施における進行

までの課題解決の手法が習得出来るよう取り組みました。

今回初となる研修生による森林教室となりましたが、主催者の児童クラブはもとより、参加者の小学生にも大好評をいただき、参加者の大きな拍手で終了となりました。

後日、児童クラブから、森林教室が児童の夏休みの楽しい思い出の1ページになった等の感謝のお手紙とともに、3年生の太平たくみ君から、講師5名分の手作りアクアビーズのストラップが届きました。

今回、ご協力いただきました関係者の皆様ありがとうございました。

## 歴史的資料の林業遺産 について関係機関でオ ンライン対談を実施し ました

〈局企画調整課〉

林業遺産とは、一般社団法人日本森林学会が、林業発展の歴史を示す景観、施設、跡地等、土地に結びついたものを中心に、体系的な技術、特徴的な道具類、古文書等の資料群

を認定しているもので、2013年度から昨年度まで45件が登録されています。

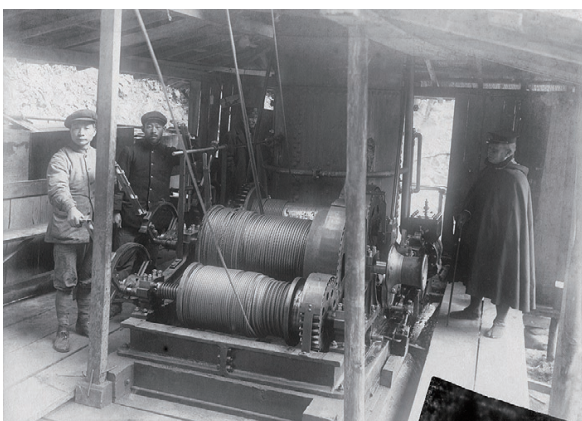
このほど、日本森林学会の主催で、四国森林管理局のほか、学会の林業遺産選定委員会の委員、歴史的資料関係の林業遺産を所有する木曾山林資料館、中部森林管理局及び大日本山林会が、資料の保管や活用等について、現状や問題点、今後の課題等について、オンライン形式で情報共有、意見交換を行いました。

当局には、大正11年の皇太子殿下（後の昭和天皇）の四国行啓を記念し、当時の高知大林区署（四国森林管理局の前身）が管内の事業等の写真を集めた「行啓記念写真帳」（製本）と、この写真帳に使用された写真など多くの業務関係写真（422枚（重複を除く））が写真帳として保存されています。これらの写真帳は、2013年度に「四国森林管理局保存の大正〜昭和初期の林業関係写真」として5つ目の林業遺産に登録されました。



大正～昭和初期の林業関係写真

大正期から昭和初期の林業や植生、山村の暮らしなどがわかる写真も多く残されており、例えば、魚梁瀬森林鉄道の空の貨車を犬に曳かせている様子、導入間もない蒸気機関車の活躍ぶり、米国から輸入した当時日本に三台しかなかった集材機、治山工事で石積みのお堀を構築する状況、禿げ山に人海戦術で段を作り苗を植えて緑化する状況などが撮影されており、当時の人々の林業活動などを視覚的に捉えることができる貴重な資料です。



集材機運転状況



犬に貨車を曳かせている様子





魚梁瀬森林鉄道の蒸気機関車

対談では、各機関や学会から、各機関の管理する遺産の内容、保管・管理、活用状況などが説明され、いずれも大変貴重な資料で、デジタル化を進め、ホームページ等による公開も積極的に行われていることが紹介されました。また、林業遺産に登録されたことにより、保存されている歴史的資料が貴重なものだと内部でも認識された、取扱いを慎重に行わなければならない意識が高まった、地域で取り組む日本遺産の認定申請に活用され、地域に貢献したなど登録されて良かった一方、新型コロナウイルス感染症もあり活用状況が低迷し

ている、資料の劣化や害虫対策など維持・保管が問題になっている、次の世代にどのように残していくかなど今後の課題について、それぞれの実情や考えを聞くことができました。



対談の様子

当局の林業遺産についても同様の課題があり、引き続き学会や関係機関と連携していく考えです。また、この貴重な資料をできるだけ多くの方に知っていただくため、デジタル化を進め、ホームページでの公開や地元市町村等への紹介などに努めていくこととしています。是非、グリー

ン四国の読者の皆様も、ご覧いただきたいと思えます。

なお、対談の様子は、学会の広報紙「森林科学」に掲載される予定となっております。

林業遺産の一部（「行啓記念写真帳」）を当局HPに掲載しています。



林業遺産について（日本森林学会HP）





## 嶺北高校で森林学習教育の授業を実施

〈嶺北森林管理署〉

嶺北森林管理署では、本山町内にある県立嶺北高等学校の2年生に、昨年度から森林環教教育の授業を行っている。今年度は3年生にも対象を広げ、2日間の日程で行いました。



植栽地見学（3年生）

7月28日には3年生13名を対象に、石原山国有林88林班で造林地の植栽箇所を見学し、当署職員からシカ・ノウサギによる被害を受けた苗木の状況と保護について、説明を受けながら現地を見て回りました。

生徒からは「シカとノウサギの被害はどちらが多いのか」「帯状に伐採しているのはなぜか」などの質問があり、ノウサギ被害の拡大に驚いた様子で、説明に対して熱心に聞き入る姿が見られました。



くくりワナ体験（3年生）

その後、場所を移動して生徒達にシカやノウサギのくくりワナ設置方

法の体験を、当署職員の指導のもと実施しました。

くくりワナの実演では、木の棒をシカの足に見立ててワナに差し込むと、ワイヤーがバネの勢いで棒に巻き付く様子に生徒達は皆一様に驚き、終わった後には「衝撃的だった」などの声が聞かれました。

また、8月4日には2年生10名を対象に、署長等から森林科学「森林の現状と役割」などの講義を行った後、ドローンの体験飛行のための各種規制や操作方法等の説明を行い、実際に一人ずつ操作に挑戦しました。



森林の講義（2年生）

生徒達はドローン操作が初めてということもあり、普段自分達が通

ている校舎や町並み、景色を違う角度から見られることが新鮮で楽しい様子でした。



ドローン体験（2年生）

この他、グラウンドでのコンパス測量の体験と測定結果を基にした製図作業が行われました。

生徒からは「ドローンの飛行画面がテレビみたい」「測量の誤差修正の方法を知ることが出来て勉強になった」といった感想が聞かれました。

今回の授業によって、生徒達に森林林業に対する興味を持ってもらうことが出来たのではないかと思います。

当署では、今後も嶺北高校の活性化と地域の方々に森林・林業に対する理解を深めていただく取組を行っていきます。